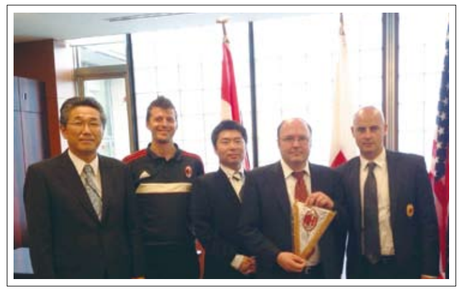
HOT! NEWS

一般財団法人と協定締結。「ACミランサッカースクール」スタート！

イタリアの名門サッカークラブ・ACミランが世界中で展開する、子どもたちを対象にしたサッカースクールが一般財団法人地球子ども村（小牧市）の運営により本校のグラウンドを利用してスタート。一般財団法人との協定による、スポーツを通じた国際教育に注目が集まります。



本校グラウンドで新しい国際教育プロジェクト

“地球人”としての感性、知性、行動力を育成する教育・福祉事業を展開する一般財団法人地球子ども村（小牧市）との共同プロジェクトとして、2013年10月から本校のグラウンドで開かれるACミランサッカースクール愛知『名古屋御器所校』。世界を代表する名門クラブ・ACミランの公式スクールは、小牧市、大分県に続いて3校目。学校法人と財団法人による協定事業としては、国内初の取り組みとなります。

育てるのはサッカー選手ではなく「国際人」

ACミランサッカースクール愛知『名古屋御器所校』は、「未来の国際人の育成」という教育理念を共にする、名古屋国際中学校・高等学校と地球子ども村との間で結ばれた「愛知県における国際的素養のある人材育成に貢献する協力事業」を目的とした協定のもとに誕生した、新しい国際教育プロジェクト。週末の午前中に本校の人工芝グラウンドを利用して行われ、ACミランの育成メソッドを取り入れた指導を展開し、サッカーを通して国際感覚を磨く場を提供します。

▲「名古屋国際中学校・高等学校の教育理念には、ACミランの育成スローガンとの共通点が多い」とテクニカルディレクターのマテオ・コントさん（右）。

イタリア国内に110校、世界14か国で展開されているACミランサッカースクールでは、サッカーの技術だけではなく、フェアプレーの精神やチームメイトと協力することの大切さ、時間厳守、自己鍛錬など「人間教育」を重視。そして、自ら考え行動できる人間を育てることを育成の理念としています。「サッカーはプレーの中で常に的確な判断を求められるスポーツ。トレーニングを通して子どもたちに、自ら“答え”を導き出すことの大切さを伝えていきたい」と話すテクニカルディレクターのマテオ・コントさん。ACミランには“偉大な選手は、偉大な人間でなければならない”というスローガンが受け継がれていて、「目標や課題に対して主体的に考え行動する能力は、人間として成長する上でも必要な要素になる」と話します。同じビジョンを共有し、国際社会で活躍できる人材育成を目指すサッカースクールの未来に、本校も大きな期待を寄せています。

また、2015年4月に国際バカロレア ディプロマ・プログラム（以下、IBDP）を開始予定の本校では、IBDPカリキュラムの一部である国際インターンシップに、受講生をACミランサッカースクールの海外遠征スタッフとして参加させる計画が進行しています。「21世紀の人材育成は、ひとつの言語、一つの国、一つのキャンパスでは完結しない。これまでにも多彩な国際教育プログラムを実施してきましたが、スクールのスタートを機にさらにその歩みを進めていきたい」と教頭の小林格先生。今後もさまざまな展開を見据え、未来の国際人を育成していきます。

Feature

2015年4月、本校は、国際社会で活躍できるグローバル・リーダー育成のための“世界水準”の教育プログラム「国際バカロレア ディプロマ・プログラム」を導入します。カリキュラム修了者には海外の大学への進学資格が与えられる、世界に歩調を合わせた新しい教育の内容について紹介します。

世界水準のカリキュラムを導入。国際バカロレア ディプロマ・プログラム

▲国際バカロレア ディプロマ・プログラムについて説明してくれたジョージ・ブルイト校長（左）とティム・デイリー先生。

東海地区では、本校が唯一の認定候補校

TIMES：国際バカロレア ディプロマ・プログラムの概要について教えてください。

ジョージ・ブルイト校長：ディプロマ・プログラムは16歳から19歳（高校2・3年生）を対象にした国際的な教育プログラムで、バランスのとれたカリキュラムのもと論理的思考力、表現力、社会性など、グローバル・リーダーに求められる幅広い素養を育成します。外部の専門家が評価を行い、最終試験に合格すると世界中の多くの大学への入学資格が与えられます。

TIMES：本校でディプロマ・プログラムがスタートするのはいつ頃ですか？

ティム・デイリー先生：2013年9月にディプロマ・プログラムの候補校となり、2015年4月のプログラム開始に向けて準備を進めています。現在、東海地区の高等学校で候補校に認定されているのは本校だけです。

ジョージ校長：国際バカロレアは世界水準のカリキュラムを提供するため、認定校になるまでには入念な準備が必要です。本校は現在は第2フェーズに入ったところで、より良い指導体制を整えていくためのプログラムの改善を進めています。また、校内の自習スペースを増やすなど施設も充実させていく予定です。本校と名古屋商科大学の図書館をオンラインで結び、学内便で本を取り寄せるという試みも進行しています。

TIMES：ティム先生は本校のディプロマ・プログラムのコーディネーターも務められます。その役割について教えてください？

ティム先生：最も大切な役割は「国際バカロレアとは何か」について、生徒、保護者、教員に対して説明することです。国際バカロレア本部との連絡を密にして、情報を共有していきたいと思います。また、ディプロマ・プログラムはとても高度なカリキュラムで、教員には定期的なワークショップやオンライントレーニングへの参加が義務づけられています。4〜5名のネイティブ教員と2〜3名の日本人教員、そしてコーディネーターとして校長が指導にあたりますが、教材研究や担当教員のスキルアップなど、効果的な指導体制を築くことも重要な役割のひとつだと考えています。

▲コーディネーターとしても本校のプログラム作成に携わるティム先生。

バランスのとれた特徴的なカリキュラム

TIMES：国際バカロレアでは、どのような人材の育成を目標としているのでしょうか？

ジョージ校長：国際バカロレアの教育理念は全人教育にあります。総合的でバランスのとれたカリキュラムを通して、知への探究心や、異文化に対する理解力など、グローバル感覚に優れた国際人を育てることを目標にしています。

TIMES：その目標を具現化するカリキュラム、また具体的な学習内容について教えてください。

ティム先生：ディプロマ・プログラムのカリキュラムは、①第1言語、②第2言語、③個人と社会、④実験科学、⑤数学とコンピュータ科学、⑥芸術または選択科目という6つのグループで構成されます。さらに、特徴的なカリキュラムとして「EE（Extended Essay：課題論文）」、「TOK（Theory of Knowledge：知識の理論）」、「CAS（Creativity、Action、Service：創造性、活動、奉仕）」があり、身につけた知識を実社会で活用できる能力が養われる、非常に幅広くバランスのとれた内容になっています。本校ではグループ①〜③を国語・英語・経営学、グループ④〜⑥を化学・数学・音楽とし、2年間でそれぞれ240時間、150時間をかけて高度な学習に取り組みます。

ジョージ校長：授業は効果的に学習成果をあげるため、1クラス25名以下の少人数制で行われます。また、ディプロマ・プログラムには決められた教材はなく、新聞や雑誌の記事、インターネットの情報を使ってディベートをする“参加型”の授業が展開されます。たとえば「TOK」の授業では、ある題材について多角的な視野から考え、討論することでラテラルシンキング、クリティカルテシンキングを磨いていきます。この点は、一般的な日本の高校教育との大きな違いです。

▲ディプロマ・プログラムのカリキュラム

ティム先生：きっと日本の高校教育には「TOK」のような授業は少ないと思います。また、「EE」では自ら課題を選び研究した約4,000文字の論文を英語で書きますので、リサーチ能力や表現力など、大学での学習への準備としても大いに役立つはずです。「TOK」を中心にそれぞれの学習を密接にリンクさせ、高度な知性と優れた人間性を育んでいくことが、ディプロマ・プログラムの最大の特色です。

海外の大学進学のため、授業はすべて英語。

TIMES：ディプロマ・プログラムの授業はすべて英語で行われるのでしょうか？

ジョージ校長：本校では、国語以外の授業は英語で行います。昨年3月の政府と国際バカロレア機構との合意によって、ディプロマ・プログラムの多くの授業で日本語が使えるようになりましたが、本校の目標はあくまでも「海外の大学で活躍できる英語力を身につけさせる」こと。もちろん、補足的に日本語で説明することはありますが、原則として授業はすべて英語で行います。

TIMES：当然ですが、生徒にも一定水準の英語力が必要になります。ディプロマ・プログラムへの受講基準を教えてください？

ティム先生：ほぼすべての授業が英語で行われるため、TOEIC®スコアが580点以上の生徒を対象に受講者を募ります。さらに、留学経験の有無によって2つの選考基準を用意し、1年以上の留学を経験している生徒は、5教科（国語・英語・数学・理科・ソーシャルスタディ）の試験結果と、英語、日本語の小論文の内容をもとに選考。また、1年以上の留学経験がない場合は、5教科の評定の合計が22以上の生徒を対象に、英語、日本語の小論文、そして担当教員による面接を課し、総合的に判断をします。

ジョージ校長：国際的な視野を育成することに主眼を置いたプログラムですので、受講基準は厳しい設定になります。プログラム初年度は10〜15名でのスタートを想定していますが、能力の高い生徒が多くなれば、将来的にクラス数を増やしていく予定です。

▲ジョージ校長は「TOK」の授業を担当。

TIMES：ディプロマ・プログラムを受講することで得られるメリットにはどのようなものがありますか？

ティム先生：プログラムを修了し、統一試験に合格することで、国際的に通用する大学入学資格が与えられることです。国際バカロレアは外部の専門家が評価を行うことが大きな特長で、そのためディプロマ・プログラム取得者の高度な表現力、思考力、コミュニケーション能力に対する評価は非常に高く、世界中の多くの大学で入学者選抜の基準として採用されています。

世界にある約2,000の大学への入学資格に

TIMES：国際バカロレア資格取得を入学資格にしている大学はどのくらいあるのでしょうか？

ジョージ校長：世界で約2,000校が入学者選抜の基準にしており、最終試験のスコアが25点以上（満点は45点）あれば多くの大学に合格することができます。なかでもアメリカやヨーロッパでは、ハーバード大学のような超一流の大学を含め、ほぼすべての大学で国際バカロレア資格を基準として採用し、一般の学生に比べて高い合格率を誇っています。また、40点を超える好評価を得ることで、大学での単位認定や奨学生の資格が与えられる大学も少なくありません。

TIMES：国際バカロレアの教育理念にも通じる「未来の国際人の育成」は本校の教育の柱です。最後に、先生方が考える「グローバル・リーダー」の人材像を聞かせてください。

ティム先生：国際的な視野を持ち、世界共通語として英語を使うことができること。そして、他者の意見を尊重して受け入れられる寛容性と、自分の意見を発信する能力を備えた人材が、私の考えるグローバル・リーダー像です。

ジョージ校長：21世紀の国際社会で求められるのは、既成の理論や概念にとらわれないクリティカルな思考のできる人材。国際バカロレア ディプロマ・プログラムを通して、そうした若者を育てていきたいと思います。

● 国際バカロレア ディプロマ・プログラムとは？

柔軟な知性の育成と国際教育の促進を目的として、1968年に発足した国際バカロレア機構（本部 ジュネーブ）が展開する、16歳〜19歳を対象にした国際的な教育プログラム。総合的でバランスの取れたカリキュラムによって高度な知的水準に挑戦するとともに、国際理解を深める全人教育を実践。21世紀に羽ばたく国際人を育成している。ディプロマ・プログラムの課程を修了し、統一試験に合格すると国際的に認められた大学入学資格の一つである「国際バカロレア資格」が与えられる。世界141か国に約3,500校の認定校があり、日本でのDP認定校数は16校。うち、学校教育法第1条に規定されている学校は5校（立命館宇治中学校・高等学校、加藤学園暁秀高等学校・中学校、玉川学園中学部・高等部、AICJ中学・高等学校、ぐんま国際アカデミー）のみとなります。

THE FRONTIER TIMES

Report

香川県議会による行政視察団に、先進の国際教育カリキュラムを紹介。

去る7月24日、香川県から文化振興を目的とした行政視察団が来校しました。本校の特色ある国際教育の内容や充実した施設に、香川県議会議員をはじめ視察団の多くが感銘を受けている様子でした。

香川県議会からの依頼を受け、実施されることになった今回の学校訪問。「文化振興のための調査」を目的とした行政視察団の訪問先として本校が選ばれたのは、中高一貫教育における特色あふれる「国際教育への取り組み」が評価されたため。教育機関では唯一の視察先という事実からも、その関心の高さがうかがえます。

到着した視察団をWOC教室に招いて行われた学校紹介では、小林格教頭が教育理念やカリキュラム、特徴的な国際教育について説明。続いて片山寿弘経営企画部長が、2015年4月の導入に向け準備が進む国際バカロレア ディプロマ・プログラム（IBDP）の概要を紹介。視察団が資料を凝視し、熱心に耳を傾ける様子が印象的でした。

特にIBDPに対しては多くの方が興味を抱いたようで、質疑応答ではプログラムの本質に迫るような具体的な質問が続出。予定時間を過ぎた後も質問が次々に投げかけられ、議員同士が意見を交換する姿も見られました。また、校内の見学では充実した施設に驚きや感嘆の声もあがり、議員と生徒が触れあう和やかな場面も。限られた時間ではありましたが、学校の魅力を伝えられた、とても有意義な視察にすることができました。

◀驚きの声が多く聞かれた内見学では、特徴的な施設を撮影する姿が印象的でした。